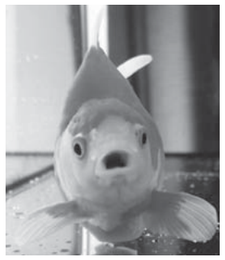
やまと文化の森だより

企画展のご案内

好評開催中!!　（最終日は 15：00 までの展示です）

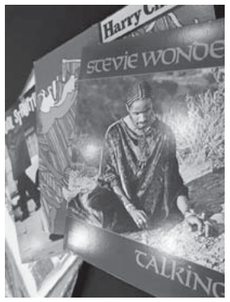
８月の展示・イベント



○第３回　きんぎょとめだかのひろば（8/2 ～ 8/25）
珍しいメダカと、町内在住の愛好家、吉山敦さんの育てた金魚が大集合！期間中は駄菓子コーナーの設置や金魚すくいもありますよ！

○プティ　マルシェ（8/17・8/18　10：00 ～ 16：00）
毎月開催のマルシェ。ハンドメイド作品の販売や、ワークショップを行います。

９月の展示



○八朔祭パネル展（9/1 ～ 9/8）
○熊本県神社庁令和５年度写真コンテスト受賞作品展　（9/1 ～ 9/8）
○「懐かしの LP レコード・オーディオ」展（9/11 ～ 9/29）
※お宅にある LP レコードを文化の森に展示できる方大募集！
開場ではお好きなレコードも試聴できます。持ち込みも OK ！
○天体写真展（9/11 ～ 9/29）
○ SHIGEZOO バンド「青春時代のフォークソングコンサート」
（9/15　開場 13：30　開演 14：00　入場無料）
○プティ　マルシェ（9/21・9/22　10：00 ～ 16：00）

問合　山都町下市 16 番地　☎ 72-9400　開館時間　9:00 ～ 17:00　入館無料
休館日　毎週月曜日（月曜日が祝日又は振替休日の場合は次の平日）、年末年始等

山の都地域しごとセンター通信vol.77

第 23 回移住者交流会をしました ～畜産農協で BBQ ～

7月５日に 23 回目となる移住者交流会を行いました。今年も、熊本県畜産農協城南支所矢部事務所でバーベキューを行いました。農業研修を通して就農された生産者に有機野菜と合鴨米（※）を提供していただき、美味しいお肉と共に 55 名の参加者と美味しくいただきました。町内各地で農業や林業、サービス業等の多方面から熱い想いを持ち生活されている方々が相互に交流された様子があり、しごとセンターの事務局も刺激的かつ楽しい時間を過ごすことができました。

※提供者　ピーマン：谷藤晃宏さん（仮屋）、玉ねぎ・レタス：上田裕之さん（鶴ケ田）、
トマト：株式会社ななころび農園（井無田）、合鴨米：藤本真美さん（入佐）

問合　空き家や移住・定住に関するお問い合わせは、お気軽にどうぞ。
山の都地域しごとセンター ☎ 72-9111　e-mail:yamato.shigotocenter@machi-y.jp

わたしたちの人権 233

誰もが人間として生きていくうえで侵すことのできない当然の権利これが『人権』です

人権作文の紹介（令和五年度）

今月は、矢部高校二年 坂本由唯さんと矢部高校二年 野田松利さんの作文をご紹介します。

個性　（坂本由唯）

個性とは何か、と訊かれたら私は「じぶんらしさ」と答えます。私は個性を発揮できている人がとても素敵だと思います。私たちには一人ひとり違う個性があります。その個性をみんなが発揮できているでしょうか。私は発揮できていないと思います。なぜなら私も人と違うことを好まなかったからです。私は昔「変わっているよね」と言われたことがあります。当時の私はこの言葉をネガティブに捉えていました。これがきっかけで、人と違うことはおかしいこと、恥ずかしいことだと思い込んでいました。人から普通を求められている気がして、私は普通でいることに必死になっていました。しかし私はある言葉に出会いました。それは「個性イコール普通」という言葉です。この言葉で私は変わることができました。世の中には色々な人がいます。それもまた普通です。スカートを履くこと、髪を伸ばすことも自由で個性です。男の子を好きになるのも、女の子を好きになるのも全て個性です。何かしらの固定概念にとらわれていたら、自分らしく生きられますか。個性があるのは普通で特別なことだと強く思います。「変わっているよね」今ではこの言葉が褒め言葉のように感じます。自分が自分らしさを発揮できているからです。これから、個性を発揮できていない人々がどうしたら自分らしさを出すことができるか考えました。結果、自分から相手を認めることが必要だと思いました。自分が認めることで、相手が自分を知り、自分の可能性を広げ自己成長することができるからです。私は個性を認め合うことができる人間になります。これからも私は私のままで、じぶんらしさを引き出していきます。

顔のない人　（野田松利）

僕は最近「ミロのビーナス」について評論した文を読んだ。ミロのビーナス像には両腕が無い。文の中で作者は、両腕を「世界との交渉の手段」と評している。両腕が無いからこそビーナス像がどのように世界と関わっているか想像が掻き立てられるのだ、と。

サモトラケのニケでも似たようなことが言えると思う。彼女には両腕のみならず、顔も無い。「表情」が無いのだ。人が人の感情を読み取ろうとする時、表情はとても大切だ。例えば日本では「目は口ほどに物を言う」の言葉どおり、目を重視する。欧米では、コロナ禍マスクで口元が隠れてしまうことで「表情が読めない」と問題となった程、口元を見る。目も口も、どちらも表情の内だ。

僕はよく、人は相手の顔を見た時にその人を「一人の人間」として認識するのではないか、と感じることがある。

こんなことがあった。顔を出さずに活動するネット配信者Aがいたのだか、ある日、有名になったAは顔出しを行った。それに対し「顔を見て初めてAが現実にいることを実感した」とコメントしたファンが一定数いたのだ。このことから僕は、人が一個人を現実感を伴って認識するのは顔を見た時なのかもしれない、と強く思うようになった。

ＳＮＳの誹謗中傷も、この問題が関わっている部分は大きいのではないだろうか。ＳＮＳでは相手の顔が見えず、表情が読み取れない。画面の向こうに人がいることを実感できないのだ。故に何気なく中傷を行える。きっとＳＮＳ上で中傷を行っている人の多くは、実際に相対した時に同じ行動を取れないだろう。

ＳＮＳの多くは顔のない人の集まりだ。画面の向こう側、相手がどういう想いでどういう表情をしているのか、つまり顔のない人の「顔」を想像することが大切なのだと思う。

**自分の人権を守り
他人の人権を守る
責任ある行動を**

©2010 熊本県くまモン